

惜別のことば

山本英一

河合先生、こんなに早くお別れするとは思ってもみませんでした。

私が近畿大学に助手として赴任しました日、大勢の英語教師の中に、専任講師の先生がいらっしゃいました。小さな大学で学んだ私にとって、英語の先生だけでも30人を超える巨大な組織の中に、新米教師として放り込まれたときの戸惑いと不安は言うようもなく大きなものでした。その翌年には助教授になられた先生は、私にとって雲の上の存在でしたが、同じ英語学を志す研究者として、またベテランの英語教師として、親しく声をかけてくださいました。あの日から26年の歳月が流れました。やがて先生も私も組織こそ違え、関西大学に着任し、外国語教育研究機構ができた2000年からは再び仕事を共にすることになりました。数えますと、2つの職場をまたいで、実に20年のお付き合いでした。

思えば、先生は2つの面で私の人生を豊かにしてくださいました。一つは教師としての人生です。近畿大学教職教育課程の英語科を一人で支えておられた先生は、新米の私に、英語の教職科目の一つ「英会話」を担当するように言われました。その後も、「音声学」、「表現英作文」、「教育工学」の担当を提案してくださり、それぞれの授業を通して学生を指導することで、英語教師としての視野が大きく広がったことは、私にとって望外の幸せでした。先生が逝かれたのと相前後して、教職課程で出会った学生の一人が、大学の准教授として羽ばたいてくれました。先生は、英語教師を目指す学生たちとの素晴らしい巡り会いの機会を私に与えてくださったのです。

もう一つは、家族に囲まれた人生。先生は、学生時代に縁のなかったスキーの世界へと私を誘ってくださいました。生まれて初めて滑った梅池高原への旅では、手作りの素敵な旅の葉をいただきました。まるで中学生か高校生に舞い戻ったかのような心温まる旅の中で、スキーの楽しさを教えてもらいました。私はいつまでも初心者のままで、いまだに先生のように綺麗に滑ることはできませんが、お蔭で、何年か後にわが息子や娘を連れてゲレンデに出る喜びを味わうことができました。先生は、家族と過ごす心豊かな時間も私に与えてくださいました。

教職課程の学生たちと一緒に出かけた野沢温泉へのスキー旅行では、昭和最後の日と平成最初の日を、先生とともに迎えました。考えてみますと、先生とはいくつか印象深い旅をしてい

ます。近畿大学時代に、イリノイ大学での語学研修で、学生を引率して共に過ごした1ヶ月も、今となっては思い出深い1コマです。教師としての姿と、また研究者としての姿を垣間見たように思うからです。学生の一人が、週末を過ごしたホームステイ先から戻ってこなくて大騒ぎになったときのこと。結局、ホストペアレンツに連れられて、隣の州へ旅に出ていたことが判ったものの、連絡を怠ったコーディネーターを前にして、先生は烈火の如く怒られました。そこには、教師としての責任感はもちろんのこと、親がわが子を気遣う心情にも似たものを感じたものです。また、引率の合間に出かけた書店で、面白そうな本を見つけた先生は、その場に座り込んで実に長々とページをめくっておられました。その旺盛な好奇心が、きっと後の韓国の英語教育についての立派な研究として花開いたのだと思います。

煙草を吸いながら二人のお嬢さまのことを語られたときの、先生の嬉しそうな顔も忘れられません。そして、立派に育てられたのはお子さまだけではありません。いまある外国語教育学研究科の前身として、文学研究科に開かれた外国語教育専攻の大学院生たちを育て、組織隆盛の礎を築かれたのも、他ならぬ先生でした。私は英語教師の魅力は、派手なパフォーマンスでも、緻密なメソドロジ-の知識でもなく、いきつくところは、こよなく英語を愛し、学生たちを包み込むような、温かい人間性にあると思っています。一人よがりの奢りや功名心とは無縁の実直さです。子は親の背中をみて、学生は教師の背中をみて育ちます。英語を楽しむ先生の実直な姿に動かされ、いかに多くの学生たちが学び舎を巣立っていったことでしょう。

たくさんの写真はもちろんのこと、形にはならない先生との思い出は、私の心のポケットに大切にしまっています。いつか、ゆっくり思い出話に花を咲かせたいという願いもむなしく、先生は、あっという間に私たちの前を駆け抜けてゆかれました。訃報に接し、胸が張り裂けんばかりの悲しみに、とめどなく涙しているのは、けっして私ひとりではないと思います。先生と出会うことができ、私も学生たちも幸せでした。

河合先生、どうぞ安らかに眠りください。お別れは痛恨の極みですが、先生が蒔かれた研究と教育の種は、私たちがしっかり育てていきます。先生の夢と思いが、先生のように英語をこよなく愛する次世代の若者たちへと伝わり大輪の花を結ぶよう、しっかりと――。